

(支那郵船) 於元新島、俄、
神山同治外一名、果步件

大正七年十月

外務省

明治十八年

沖繩縣久米島、久場
島、釣島、國標建設
件

下務

別冊魚釣、久場、久米、赤島、四航、報告、進達、候也

明治十六年二月十日

出雲丸 航長

林 鶴松

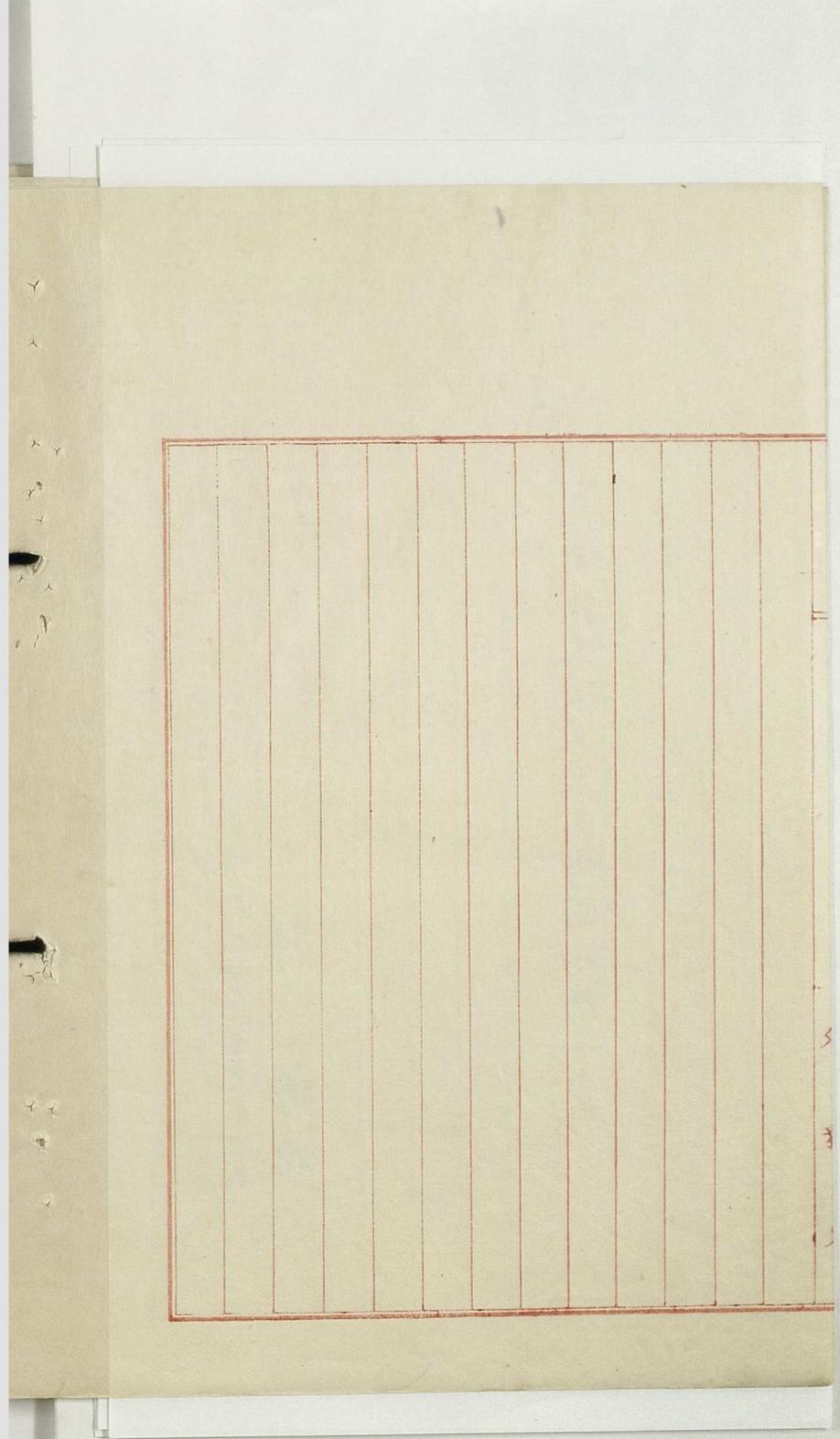
沖繩外大進記官森長義殿

魚釣久嶋久米赤崎回視報告書

日本郵船會社出雲丸社長
林 源 松

外務省

50 林 源 松



テ目立ニ通視スラ得唯潮流ノ極ナテ遠カナルヲ以テ恐ク帆
船ノ能ク通過スレバ之ヲ能ハス

魚釣島ノ西北西岸ハ嶮岸屹立シテ高ク千尺ノ岸ニシテ
漸ク東ノ岸ニ傾下シ遠ク之ヲ望ムルハ海面ノ直角ニテ
形ヲ為セリ本島ハ極ナテ清純ニ富ミテ東岸清流ノ横
流スラ認メタリ海流誌ニ據ルニ其ノ沿岸ニ川魚ノ住ス
ルヲ見タリト本島ハ那霸河ハ三重城ヲ距ル西七度南
二百三十海里ニ在リ

久場島ハ魚釣島ノ北東ニ六海里ニ在リ海中ニ屹立
テ沿岸峭ク千尺ノ内外ニテ、絶頂ハ六百尺ナリ本
島ニ魚釣島ノ向シテ更ニ航路ヲ寄泊スル地也
此ノ島ハ昔ニ皆ナク灰石ニ成リ暖地著多樹草ノ不
下ニ茂生スルニ嘗テ有用ノ材果ナク其ノ魚釣島ノ如

礁ノ如キハ僅カニ海竹ノ繁茂スルノミテ、樹木アルヲ見ズ
特ニ海島ノ群集スルニ久場島極ナテ夥シク魚釣島ノ
如キハ清純ニ富ミテ、地味恐ク人住ニ適スルモノニ
能ハス、要スルニ本島ハ、海島ニ在リ住居ヲ艱
難シタルモノト謂フモノナリ

本島ハ久場島ヨリ慶長間峽ニ直視セシムルニ途上
久米赤島ヲ認メテ、欸シ之ニ接航セシモ、適マズ、
又航路ヲ當ル時殊ニ日曇テ、晴里ニシテ之ヲ突驗スルヲ得
カリシハ、憐憫遺憾ナリ、海流誌ニ據ルハ本島ハ一岩礁ニ
過キスシテ、位地東至百廿四度、西至百廿四度、北至百廿五度、
南至百廿五度、即チ那霸三ノ至城ヲ距ル西六度、南百七十四
海里ニシテ、西百七十四度、北百七十四度、南百七十四度、
遠ク之ヲ望ムルハ、本島ハ、形極ク、状帆セシニ異ナラズト、岸際

ハお祈り之處々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ披スル各々異
ナリ蓋シテ其ノ里湖ノ中流ニ於テ立セルヲ以テ各祈皆テ
其ノ推測ヲ異ニシタルヤ必セリ

明治六年三月一日起草
同 年 一 月 四 日 發 遣

卿 輔

出仕

公信局長 佐野

主任

親展第四十二號

内務省海防局有願殿 時務公海防局并上層

沖繩縣無人島一國標建設之儀ニ付沖繩縣令ヨリ同出ニ

對スル指令ノ旨ニ関シ去ル十月廿四日附テ以テ右指令全案ヲ添

附照會ノ類由函紙 右ハ寄附ノ類ニ付同見上様有為紙同旨

卜 寄 附

別冊魚釣、久場、久米赤島回航報告書進達仕候也

明治十八年十一月二日 出雲丸船長林鶴松

沖繩県大書記官森長義殿

日本郵船会社出雲丸船長 林鶴松

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

右諸島ハ屢々外船モ往航シ其ノ景状ハ諸海路誌ニ
詳悉セルヲ以テ今マ時ニ報告ヲ要スルモノナシ請フ左ニ海路
誌ノ記スル処ノ要旨ト聊カ実地験歴セントコロヲ挙ケン
本船ハ初メ魚釣島ノ西岸ニ航着シ其ノ沿岸三四「ケーブ
ル」ノ地ニ屢々測鉛ヲ試ミタルニ海底極メテ深ク且ツ其ノ淺深
一ナラス四十乃至五十尋ニシテ更ニ投錨ス可キ地アルヲ見ス
魚釣群島ハ一島六礁ニ成リ其最大ナルモノハ魚釣島ニ
シテ六礁ハ其ノ西岸凡ソ五六里内ニ併列シ礁脈ノ水
面下ニ連絡スルカ如ク六礁ノ大ナルモノヲ「ピンナツクル」礁ト
称シ其ノ形状絶奇ニシテ円錐形ヲ為シ空中ニ突出
セリ右「ピンナツクル」ト本島間ノ海峡ハ深サ十二三尋ニシ
テ自在ニ通航スルヲ得唯潮流ノ極メテ速カナルヲ以テ恐クハ帆
船ノ能ク通過ス可キ処ニ非ラス
魚釣島ノ西北西岸ハ巉岸屹立シ其高サ千百八十尺ニシテ
漸ク其ノ東岸ニ傾下シ遠ク之ヲ望メハ水面上ニ直角三角
形ヲ為セリ本島ハ極メテ清水ニ富ミ其東岸清流ノ横
流スルヲ認メタリ海路誌ニ抛レハ其ノ沿岸ニ川魚ノ住ス
ルヲ見タリト本島ハ那覇河口三重城ヲ距ル西七度南
二百三十海里ニ在リ
久場島ハ魚釣島ノ北東十六海里ニ在リ海中ニ屹立シ
テ沿岸皆ナ六十尺ニ内外シ其ノ絶頂ハ六百尺ナリ本
島モ魚釣島ニ同シク更ニ船舶ヲ寄泊スヘキノ地ナシ
右二島ハ共ニ皆ナ石灰石ニ成リ暖地普通樹草ノ石
間ニ茂生スルモ嘗テ有用ノ材梁ナク其ノ魚釣島ノ各

礁ノ如キハ僅カニ海艸ノ繁茂スルノミ更ニ樹木アルヲ見ズ
特ニ海島「ママ（島か）」ノ群集スルハ各礁島極メテ夥シク魚釣島ノ
如キノ清流ニ富ムモ其ノ地味恐クハ人住ニ適スルモノニ
非ラス要スルニ右諸島ハ天ノ海鳥ニ其ノ住所ヲ賦
与シタルモノト謂フモ可ナリ
本船ハ久場島ヨリ慶良間海峡ニ直航セシヲ以テ途上
久米赤島ヲ認メント欲シ之ニ接航セシモ適マ夜半之
ヲ航過シ当時殊ニ曇天暗黒ニシテ之ヲ実験スルヲ得
サリシハ誠ニ遺憾ナリ海路誌ニ拠レハ本島ハ一岩礁ニ
過キスシテ其ノ位置東經百二十四度三十四分北緯二十五度
五十五分即チ那覇三重城ヲ距ル兩六度南百七十
海里ニシテ四方巉岸屹立シテ其ノ高サ二百七十尺
遠ク之ヲ望メハ日本形船ノ装帆セシニ異ナラスト本島
ハ外船モ屢々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ報スル各々異
ナリ蓋シ其ノ黒潮クロシホノ中流ニ孤立セルヲ以テ各舩皆ナ
其ノ推測ヲ異ニシタルヤ必セリ